



緑萌ゆ

新宮小・中学校長だより 2021.7.20

プログラミング教室が行われました

7月14日に、愛媛大学との連携授業「プログラミング教室」が開かれました。愛媛大学社会共創学部産業イノベーション学科ものづくりコースの高橋教授、山本教授、小長谷准教授、八木非常勤講師の4名の先生方と、11名の大学生の総勢15名の方が松山から来てくださいました。午前中は、中学生全員を対象に、午後は6年生と希望した市内の小学6年生20名が参加しました。中学生は、色を読み取るセンサーを使って、赤、緑、青、黄色の4色から無作為に選ばれた色を読み取って、その色が塗られたエリアにゴールするというミッションでした。先生からは、必要最小限の指示でしたが、さっそくプログラミングにとりかかっている姿に驚きました。難易度の高いミッションで、なかなか苦戦していましたが、1グループに1人以上ついてくださった大学生のサポートをいただき、また、このプログラミング教室の受講が3回目、4回目になる2年生3年生がリードしながらプログラミングを進めていきました。最後の発表会では、いくつかのグループがミッションをクリアしていました。ロボットの動きを見ていると、色センサーをこまめに使用するチーム、色を識別してその色に合わせて距離を設定しているチーム、色を識別してその色と同じ色を識別するまで進むようにしているチームなど、チームごとのプログラミングの工夫が表れていてとても興味深かったです。山本先生は、「プログラミングに正答はない。試行錯誤することが大切である。トライ&エラーは、すべての職業に共通するやり方であり、すべての職業に生かされる。」とおっしゃっていましたが、私もまったくその通りだと思いました。

参考にしたいということで、市内の中学校技術科を担当する先生方も3名ほど来られて一緒に受講されていました。大学の先生や大学生からマンツーマンに近い形で、このような授業を受けられる機会があるのは大変ありがたいことだと思います。繰り返しますが、プログラミングの力そのものを伸ばせることよりも、トライ&エラーを繰り返しながら課題を解決していく体験をし、思考を深める経験ができることは、本校の児童生徒にとって大変有意義なことだと思います。合わせて、四国中央市にいて大学生と接する機会を持てることは大きな経験だと思います。例年であれば、給食を共にしたり、休み時間に小学生と交流したりともっと親しく接することができるのですが、コロナ禍でそれができなかったのは残念でした。

合わせて、この教室実現のため市教育委員会から松山の愛媛大学に、教育委員会事務局参与、教育指導部長、学校教育課長、他の方が、学部長さんにご挨拶に行ってくださいている等、市教育委員会の手厚いバックアップがあったこともご紹介しておきたいと思います。

